

番傘川柳本社 7月旬会

日時 令和7年7月6日(日)
会場 たかつガーデン
出席 60名
司会 稲葉良岩
呼名復唱 中岡千代美
記名清記 西美和子

関西の梅雨明けは、平年より22日早かった。短い梅雨が明けると、いきなりの猛暑。長い夏日が続きそうな予感がある。初出席は下村郁子さん。良いご縁を感じ致します。本日のお題「熱気」田中新一選 五百人バックに和太鼓が響く 片岡 加代

アトラクション(和太鼓松村組)を詠んだ句です。大会は出席者556名の盛会でした。番傘の主幹は事前投句一般の「憧れる」の選者を、中岡千代美さんは事前投句ジュニアの「あこがれる」の選者を務められました。北海道から沖縄、台湾からと川柳を介して 楽しい出会いを頂きます。

席題 写す 瀬川 幸子 選

里帰り前に写しておくパンダ
恋らしい君の瞳にボクがいる
このところ写真が全部ふけている
満月を水面に写す千枚田
デジタルのしっかり写すシミとシワ
家族写真父は笑ったことがない
ピカドンがつけた影から立つ恐怖
アリバイは写メに二人の顔がある
AIをまる写した答えだな
証拠撮つとこ肩に手がまわる
孫娘長じて亡妻と生き写し
赤富士を写す幸せ旅の宿
コピーした写真に皺が消えている

正直に写すスマホが憎らしい
ハレの日の家族写真にあった幸
子は鏡オレそっくりの嫌な癖
繰り返し見ている孫の運動会
CTにいのちを輪切りされました
コピーでは出せぬ師匠のあの深み
わたくしの心を写す鏡拭く
写生会風も爽やか上高地
愛犬の写真が今も傍にいる
暑すぎる地球を写す赤い月
不本意だけど写真は嘘をつきません
百目指す写経百巻終えたから
全体像を撮るのは難しいキリン
徒然の情けを写す旅日誌
大嫌いな父に生き写しの私

柴田 園江
神田 良子
大塚のぶよし
奥野健一郎
西 美和子
稲葉 良岩
阪本 秀子
森 廣子
田中 新一
菱木 誠
山本さくら
北川ヤギエ
正信寺尚邦
大西 将文
下村 郁子
四コマ漫画時代写してきた昭和
南海トラフカラが怖き写し出す
学校の宿題クラス皆同じ
終電車淋しい素顔うつされる
左斜めから写してといつも言う
片付けた部屋の写真は撮っておく
五重の塔米つぶのようなのが僕
逆さ富士母と私も生き写し
ひたすらに写経自分を取り戻す
衛星写真溶けた南極写しだす
六十年お互い様を写す皺
天神祭写しています汗みどろ
宿題もがく
八木 幸彦 選

井本 健治
辻 肇
小寺八重子
桑原すゞ代
大堀 正明
岩田 明子
小川賀世子
西 美和子
田中 新一
原田 正士
松本 榎子
瀬川 幸子
山本さくら

若い芽がもがき疲れている格差
振り向けば残り時間がもがいてる
もがいてももう手遅れと知っている
逃げまどうゴキブリジェット噴射する
投票は僕らのもがき聞く人に
やれることはやった今さらもがいても
覆水をひたすら拭いている時間
推敲にあれだけでもがきこの程度
二日酔いふとんの海でもがいてる
底辺でもがいた虫が蝶になり
もがいてももがいてもまだ僕ひとり
百歳の皺は苦闘の宝もの
一本の葉を掴んでもがく日日
ローン苦にもがきながらもけりがつく
フェルメールの青がなかなか出ない筆
金婚式済んだが妻にまだもがく
議論よりスキャンダルとの泥仕合
なるようにしかならないと第三者
進む道もがいてやっとたどり着く
もがいても流されてゆく我が定め
部分入れ歯かたいお肉に難儀する
悲しいともがき嬉しくてももがく
カナヅチは背が立つブルでももがく
没イチのものがきを時がほどいてる

沼田 捷二
奥野健一郎
本田 智彦
阪本 秀子
松岡 篤
北川ヤギエ
田中 新一
下村 郁子
田中 利一
大西 将文
中井 佳子
菱木 誠
油谷 克己
小上 元武
片岡 加代
倉 周三
稲葉 良岩
田中 新一
小上 元武
田中美弥子
柴田 園江
古川 洋子
田中 薫
辻 肇

イカ焼きの烏賊ももがいたあとがある
政治家は知らない家計簿のものがき
もがくのはよそうこれからは自然体
アリスがブルサイドでもがいてる
こんなにも自分もがくとは知らず
万博の予約にもがくアナログ派
禁煙の澄んだ空気にもがく意志
あの時の自分を今も許せない
おぼちゃんは泣いてもがいてパンダロス
もがきながらプラス思考にたどり着く
初恋に破れもがいた事がある
もがき苦しむ地球無視するヒトのエゴ
もがくのをやめて己を取り戻す
消すことを忘れて色を足すばかり
人生をもがき続ける我が日記

西澤 知子
荻野 浩子
林 ともこ
野口 龍
本田 智彦
西上 遊二
高橋 裕樹
山本さくら
銭谷まきひろ
松本 柊子
三好 聖水
原田 正士
井本 健治
高橋 裕樹
八木 幸彦

宿題 昼 寝 田中 薫 選

毎日が昼寝のような男です
衝立を出して昼寝のトド隠す
年中無休妻も昼寝という余禄
ピンポンに主婦の昼寝を邪魔される
ユートピア母は昼寝をいたします
死に顔はこんなやろな夫昼寝
風鈴に弄ばれて昼寝する

森 廣子

大の字の至福実家の青畳
サブリより昼寝元気になる私
昼寝こそ神の配慮のブレゼント
たっぷり昼寝したから怒らない
お昼寝も狸寝入りもする議員
国会で眠る候補に票入れぬ
ボケてません今昼寝から醒めただけ
昼寝から目覚めこの世に舞い戻る
進んでるお昼寝タイムある会社
不眠症たっぷり昼寝また不眠
ぐっすりの眠りを誘う昼の酒
金魚さえじっと動かぬ屋下がり
縁側で風鈴なっていた昭和
ムーミンの森で昼寝のハンモック
うたた寝の午後は天使が舞い降りる
図書館は朝から昼寝するところ
味しめて飛び出す鬼待つ昼寝
夜遊びで元気秘訣は昼寝です
うつらうつら滑り落ちてる本の音
藤椅子で昼寝をすれば母の夢
保育士の愛ですやすや児の寝顔
へん天的昼寝の猫に付き合っ
師の声が導眠剤の五時間目
青畳サンショウウオになっっている

大塚のぶよし
北川ヤギエ
沼田 捷二
本田 智彦
高橋 裕樹
松岡 篤
下村 郁子
大堀 正明
原田 正士
西上 遊二
田中 新一
岩田 明子
阪本 秀子
西 美和子
松本 柊子
大西 将文
油谷 克己
八木 幸彦
湯澤 孝扇
高橋 裕樹
冬の ト
湯澤 孝扇
大塚のぶよし
柴田 園江

山椒魚も妻もときどきする昼寝

西澤 知子

焼肉に口説かれビール三杯目

林 ともこ

野生には遠い隙だらけの昼寝

桑原すゞ代

海よりも深い愛だと口説かれる

荻野 浩子

昼寝させネットで稼ぐ若いママ

松田 礼子

半値の文字に主婦の財布は口説かれる

片岡 加代

朝寝して昼寝この世を謳歌する

大堀 正明

七夕祭り鯉と冷酒で待ってるわ

西 美和子

クーラーに命預けて昼寝する

田中 新一

口説かれて肩たたかれて今がある

高橋 裕樹

淑女シエスタモーツァルトを聴きながら

原田 正士

サクランボの口説きに弱い男たち

北川ヤギエ

昼寝覚めまだこの世だと安堵する

森 廣子

手を変えてクドクド桃が腐りだす

神田 良子

健康寿命へ昼寝も老いの日課です

北川ヤギエ

ワタクシを口説いてほしいとも言えず

松田 礼子

戦争のニュース聞きつつ昼寝する

田中 薫

君のため作った曲だ聴いてくれ

岩田 明子

宿題 口説く 西澤 知子 選

可愛いと口説かれ出馬決めました

下村 郁子

口説かずには脅しまくったトランプ氏

西上 遊二

プーチンに停戦口説く人よ出よ

松岡 篤

幽霊を口説いてみたい熱帯夜

柴田 園江

若者の甘さネットで口説かれる

八木 幸彦

口説かれても割がれませんよゲームテブ

神田 良子

怠け癖ついた自分を口説けない

田中 薫

口説かれてウンと言いつつ遠花火

桑原すゞ代

乙姫の返事としての玉手箱

山田 恭正

シニア婚通帳見せてプロポーズ

山本さくら

ばた餅に口説かれている皮下脂肪

古川 洋子

口説かれてなおちぢこまるダンゴ虫

大西 将文

家族葬いかたとセールスやって来る

田中 薫

私の胃口説くマクドのえびフィレオ

原田 正士

飲むんなら乗るなと酒に口説かれる

北川ヤギエ

郷愁の心カラスに口説かれる

古川 洋子

口説かれて悪い気はせぬかぐや姫

森 廣子

こてこての大坂弁で口説いても

片岡 加代

こしこしと口説きこしこしと振られ

島田 握夢

夏バテに口説く土用の日のウナギ

荻野 浩子

天気図に口説かれ今日も冷や奴

片岡 加代

草間彌生の水玉にくどかれる

西澤 知子

宿題 気がつけば 岩田 明子 選

気が付いた時はもう遅すぎる投資詐欺

八木 幸彦

預金残ゼロでびっくり詐欺にあい

松岡 篤

悪酔いはトランプ節のせいだった

銭谷まさひろ

介護保険ずつと誰かが使ってる

西澤 知子

収穫の楽しみ猿にさらわれる

田中 薫

食べたのは買った覚えのないアイス

稲葉 良岩

峠越えこんなとこまで来たふたり

田中美弥子

外堀を埋められていた老いの恋

井本 健治

モノクロの世界で虹を追うていた

西 美和子

我武者羅に生きてあももうこんな歳

山藤 聖子

しもそばかす歳相応にあるのです

柴田 園江

手もつなぎキスもしていた観覧車

高橋 裕樹

さみしくて指輪五つも付けていた

西 美和子

あなたは哀しいほどのディスタンス

桑原すゞ代

食べ始めて気付く食前の薬

山田 恭正

ゴールまで残り時間は後わずか

神田 良子

来年は金婚式になるらしい

西澤 知子

筆庄に本気が見えたらブレター

松岡 篤

あの時の苦労は今の肥やしです

阪本 秀子

クローンかあちらこちらに同じ顔
より好みてたら誰も声掛けず
ヘンクリがいつの間にやら消えている
お隣もそのお向かいも独り者
手のひらで踊らされてる半世紀
チン料理独り暮らしがどうにつく
もうこんな時間食事をしなければ
いつのかしらお酒がお酢になっている
その話どうも私のことらしい
何とまあ孫がわたしをおんぶする
乾杯の音頭の役の歳になる
添え木などなくても一人立っている
悪いのは全てニンゲンだったのさ
もったいないもったいないとゴミ屋敷
ほめられておだてに乗って買われる
今気付くあれブロボーズだったのね
傲慢になってた味方消えていた
虹を追いつけば傘寿とうに過ぎ
知らぬ間にもう呼び捨てにされていた
枇杷みのるもう半年が過ぎました
ポリウムが大きくなっていたテレビ

宿題 熱 気 田中 新一 選

佳句佳吟熱気ただよ座の句会 北川ヤギエ

熱い血が確かにあつた初句会
高齡のドンが世界を左右する
熱い想いでレノン歌った反戦歌
車座で天下国家をメッタ切る
平和論コラムが熱く語りだす
物価高詰め放題に並ぶ列
備蓄米熱い視線をあびている
古古古米並ぶ熱気の肝っ玉
バーゲンにくり出す主婦の熱気団
バーゲンに見せる女のクンデカラ
醬油が焦げるニッポンの祭りだよ
五百人バックに和太鼓が響く
ギャル神興熱気に暑さふと忘れ
ねぶた祭りの武者絵大迫力で来る
ギャル神興異常猛暑も気にしない
夢洲は日に日に熱気あがり出す
急成長熱気むんむんする会社
iPSまだまだ可能性の熱気
あと一球コール叫んでいる熱気
あと一球コールに揺れる甲子園
酷暑でも燃えてる阪神の熱気
17番世界の熱気背に受けて
石川を絶叫させた大の里
盤上の一手一手に散る火玉

野口 龍
山本さくら
原田 正士
正信寺尚邦
穂山 常男
山本さくら
西澤 知子
林 ともこ
林 ともこ
松岡 篤
桑原すゞ代
片岡 加代
穂山 常男
瀬川 幸子
西 美和子
小上 元武
八木 幸彦
小山恵美子
大堀 正明
小川賀世子
荻野 浩子
油谷 克己
冬のト
菱木 誠

尻込みの背中に発破かける妻
研ぎ澄ます闇に熱気の薪能
おしくらまんじゅう教師も手も熱かった
本物が集うとすさまじい熱気
この熱気消したいレモンひとかじり
初恋の熱気に遠い喜寿の恋
まだ夢へのち燃やしている熱気
加齢とのがっぷり四つのせめぎあい
まだまだと趣味に注いでいる熱気
その日まで胸のドラムが鳴り止まぬ
飲むほどにタイムスリップする熱気
居酒屋の路地に吹き出す換気扇
余熱まだあって自分を駆り立てる
反発の拳にこめている熱意
リベンジの狼煙を上げるホイッスル
6Bに換えて熱気が舞いもどる
熱気あるうちに終止符打っておく
鉛筆一本いのちを弾ませる
迸る熱気越えねばならぬ坂
川柳を語れば赤い血が滾る

柴田 桂子
西 美和子
高橋 裕樹
片岡 加代
古川 洋子
桑原すゞ代
田中美弥子
井本 健治
田中美弥子
松本 征子
大西 将文
西上 遊二
奥野健一郎
高橋 裕樹
阪本 秀子
銭谷まさひろ
本田 智彦
菱木 誠
柴田 桂子
田中 新一

